



「おビール」のなぞ

「おビール」という言葉は、おもしろい。「お」は、ふつう外来語には付かないからである。例えば「おワイン」「おウイスキー」などとは言わない。「おコーラ」なんて言うとなぜ怒られそう。それなのに「おビール」だけはふつうに言うのである。

手始めに、「こ」と「お」の使い分けはといえば、「御研究、御旅行、御母上様、御手もと」などのように、下に続く語が漢語なら「こ」、和語なら「お」となっている。もっとも、あとに続く言葉が漢語なのに「お」を使うこともある。「御誕生日」「御歳暮」などがそうだが、本来は漢語でも、ふだんよく使っていると、身近な和語のように

感じられるのだろう。「ビール」は本来外来語だが、身近な語として、あたかも和語のような扱いになっているといえる。敬語を使う場面でこの言葉がよく出てくるということもあるかもしれない。

では、用法はどうか。実は、「おビール」の用法も、これまたなかなか豪勢である。三種類、ありそうなのだ。

まず一つめに、「先生のおビールがぬるくなってしまう」。なんて言うのと、持ち主の「先生」を高めているように思える。そうするとこれは「尊敬語」だ。例えば、「先生のおかばん」「お客様の車」などという場合の「お」は、その持ち主を高める敬語だが、それと同じである。

しかし、相手にビールをつぐときはどうだろう。「先生に心を込めておビールをおつぎする。」などと言えば、「先生」は持ち主ではなく受け取り手と言える。ちょうど、「先生へお送りするお手紙」というのと同じである。だとすれば、これは謙讓語だということになる。

一方、もう一つ「美化語」というものもある。例えば「お正月」「お茶」などの「お」は、持ち主や受け取り手のことを高めているわけではない。こういう、美しく言う

だけの働きしかない敬語を「美化語」と言う。おもしろいことに「お酒」は、自分が飲むのでも「私のお酒」と言える。同様の用法で、もし「私のおビール、少しこぼしてしまいました。」などと言えらるしたら、この「お」は誰に対する敬意でもないの、美化語ということになる。「ビール」より「おビール」の方が上品という扱いだ。うーむ、「おビール」は深い。ちと飲みながら考えたくありませんな。

しかし、ビールは高い。発泡酒の方が安い。というわけで、発泡酒に「御」をつける。「こ発泡酒」になるかといえば、これは言わない。発泡酒の値段が比較的安いからではなくて、今のところ、「発泡酒」という言葉を敬語を使って言う機会が少ないからだろう。みんなが言うようになれば「おビール」のように「こ発泡酒」という表現が一般化する可能性はある。ん？「おビール」の類推でいえば、「こ発泡酒」でなくて「お発泡酒」？

